

岡部定一郎「福岡城寸描」(3)

1. 福岡城の構え



福岡城は水に浮かんだ城！！

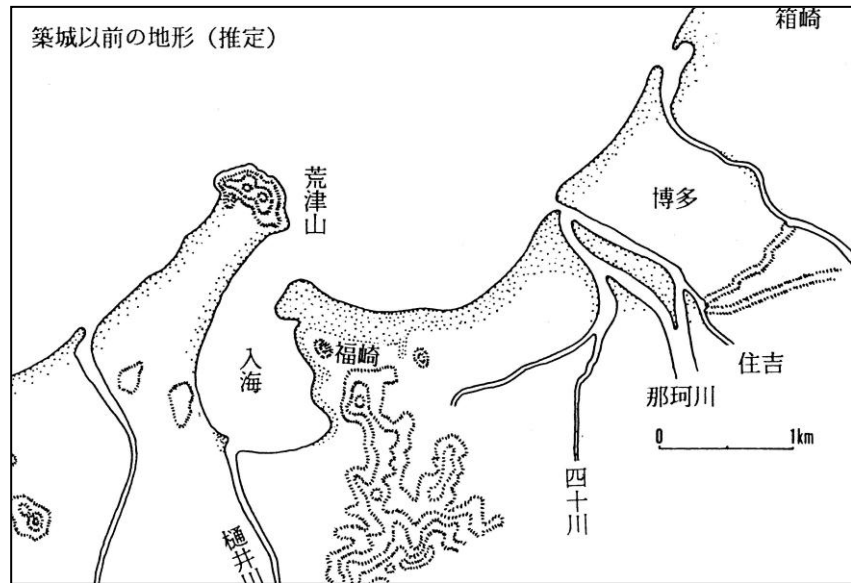
福岡本城は、福岡市の昔の地形を見事に活用している。博多湾の満潮と那珂川、薬院新川等の水の力を、今の春吉三光町あたりの処にあった三つの川口(数馬門)(※1)から取水した水量を、隣の県、旧佐賀藩鍋島公の苦役を頂き、肥前堀(※2)と呼ばれた幅60～70m位の壕を直線に西へ掘り込み、赤坂門(※3)と呼ばれる福岡城の門の所で南北に分け、今の明治通りと国体通りに平行に掘って、荒津の入江と呼ばれていた今の大濠公園へと結んだ。今の明治通りに面している濠跡がもう一廻り大きく存在していた。

今の天守台あたりにあった、小高く丘陵帯を成していた赤坂山を削り、その土で西公園、昔は荒津山と言われた岬の山下に波打つ荒津の入江と長浜の間をふさぎ、今の大濠公園の原型みたいな西側の大きな濠とし、黒門(※4)～伊崎を結ぶ水路を造って人工的に水の環流を計る水を活かした大土木事業を7カ年の歳月で行った。(資料1,2,3)

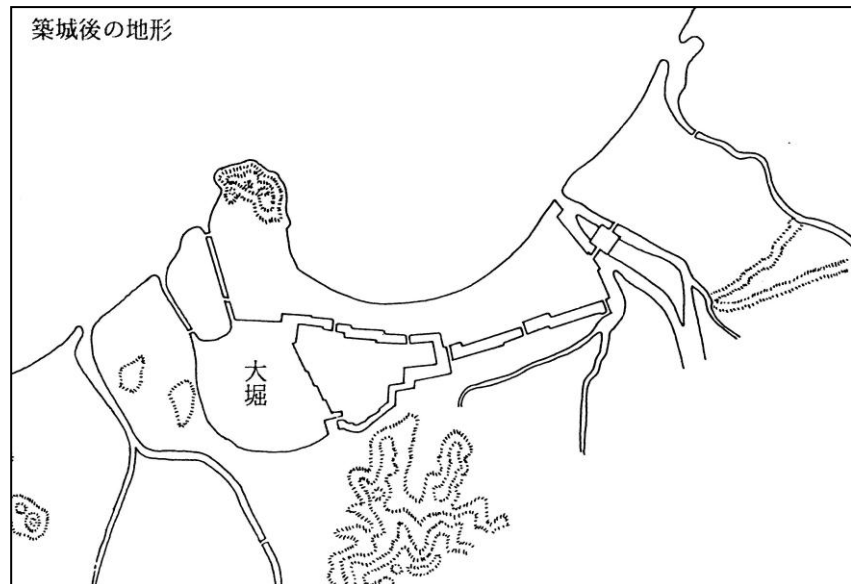
即ち四面水に囲まれた攻め難いお城を造った。



資料1
築城前の地形
(推定)



資料2
築城後の地形



(資料1,2) 西田 博著(1990). 福岡城についての12章 P17 を引用

資料3
現在の地形

